

第5回国立市健康危機管理対策本部会議記録

日時

令和2年7月29日（水）午後1時30分から午後2時40分

場所

くにたち市民芸術小ホール2階 市民ギャラリー

出席者

永見市長、竹内副市長、是松教育長、宮崎政策経営部長、藤崎行政管理部長、大川健康福祉部長、黒澤生活環境部長、門倉都市整備部長、江村都市整備部参事、矢吹会計管理者、橋本教育次長、雨宮生涯学習・文化・スポーツ推進担当部長、佐伯オンブズマン事務局長、玉江選挙管理委員会事務局長、田代監査委員会事務局長

立川消防署：加藤予防課長、迫田谷保出張所長

国立市医師会：春日井会長（テレビ会議による出席）

付議事項

- 1 国立市の感染者状況について
- 2 4市医師会PCR検査センターの状況について
- 3 各部の状況報告について
- 4 本部長指示及び対応方針について
- 5 その他

主な内容

（進行：大川健康福祉部長）

1 本部長あいさつ（永見市長）

一旦収束の方向に向かった新型コロナウイルス感染症だが、東京都内では爆発的な感染者数の増加をみている。政府は7割の在宅ワークを企業に求めている。そのような様々な情勢を受けて、国立市内の感染状況に加味し、春日井先生のご意見を伺いながら、国立市としてどのような方針で取組んでいくか検討していきたい。

2 議 題

（1）国立市の感染者状況について（事務局：橋本健康づくり担当課長）

国立市内の陽性患者数は12人（7月27日現在）。12人すべてが市内在住というわけではない。市内におけるクラスターの発生もない。

(2) 4市医師会合同PCR検査センターについて

【国立市医師会 春日井会長コメント】

- ・国立市における現在の状況をどのようにとらえているか

PCR検査の陽性者は人口比による。また、国立市内には繁華街がないため、感染者数が増加していないと思われる。クリニックの受診状況からみると、典型的な新型コロナウイルス感染症の症状というものはなく、症状が長引く人はPCR検査を受けてもらうことが多い。

普通の風邪と感染症の見分けがつかないため、基本的には医療機関を受診してもらうことになるが、発熱者の診療は一般外来と時間帯を分けている。受診前には電話をしてもらうよう広報していただきたい。また、通常受診者が困るため、受診のルールを守ってほしい。

- ・市民、職員に対してのメッセージ

感染自体はそれほど広がっていないので、過度に心配することはないのではないかと現状においては考えている。

(3) 各部の状況報告について

ア 各部からの状況報告

資料「新型コロナウイルス感染症対策の振り返りについて」のとおり。

イ 全体まとめ

- ・市内においては、過度の心配が必要な状況ではない。
- ・予断は許さない状況ではあるが、市民に対して引き続き感染予防への取組みをお願いしていく。
- ・当面は、再開した業務を維持していくとともに、職場における密の解消に向けた取組みをしていく。

【副市長意見】

・各部の取組みについて、一定の成果を上げ、課題が明らかになってきたと思う。今までは国や都の方針に基づいて対応してきたが、これからは国立市としてどうするかということについて方針を決めていく必要がある。専門家の意見を取入れるのはもちろんのこと、市民からの評価も集約していく必要がある。

(4) 本部長指示及び対応方針について

今後は、国立市の実態に即した対応をしていく必要があるため、国立市内の感染の状況や原因を把握していく。また、妊娠中など必要な職員に対しては、積極的に在宅での勤務を推進していく。

先週の東京都市長会において、保健所設置市以外の市が市内の感染状況を正確に把握できていないことが問題視された。今後は東京都及び保健所に対して、詳細な情報提供をお願いしていく。

(5) その他

今後の本部会議については、状況を見て開催する。運営部会については、事務局から招集させていただき、開催していく。

以上